



シンガポール総合病院の看護師と

特集 国際看護実習

●2010年3月13日～3月27日

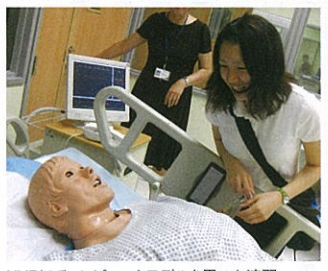
3/13	シンガポールへ向け出発
3/14	自由行動
3/15	ナンヤン理工学院(NYP)にてオリエンテーション 講義・学内見学の他、シミュレーターや心肺蘇生法を体験
3/16～3/19	シンガポール総合病院にて内科・外科病棟での実習
3/20～3/21	自由行動
3/22～3/26	健康増進協会(HPB)にて幼稚園・小・中学校の健康診断 や健康教育活動を見学
3/27	帰国

※滞在中はNYP看護学生宅でのホームステイも経験しました。



写真左から実習生の
中西さん、竹平さん

実習施設のHPB



NYPにてコンピュータモデルを用いた演習



HPBの看護師のみなさんと

※ナースシャドウイングとは、看護師にマンツーマンで「影」のように密着して行動を共にし、その仕事ぶりや職場の雰囲気を観察することです。

国際看護実習は、希望者の中から選考された看護学部3年次生2名が2週間にわたりシンガポールの医療施設等で行う実習です。シンガポール・ナンヤン理工学院(NYP)の全面的な協力を得て次のような目的で2009年度に開始しました。

①海外の看護現場で※ナースシャドウイングを通して看護の対象となる人々とその環境を理解する。

②異文化圏での実習経験から自分を再認識することで、他者を受け入れることができる幅広い考え方を持つ看護師として成長する基礎を培う。

実習中はNYP看護教員がメンターとして学生の実習指導や生活面のサポートを行います。

参加した学生の声

●竹平牧子さん

看護学部4年次生

事前学習として、先生の指導のもと両国の看護や医療について調べ資料を作成し、英語は、国際交流センターに相談し会話と医療単語を中心に勉強しました。事前に得た知識は役立ちましたが、もっと勉強しておけば良かったと思う事もありました。将来、保健師として地域の保健予防活動に関わりたくと考えています。健康教育に多くの費用と人材を投与するシンガポールの政策や取り組みは興味深く、今後の参考になりました。出発前は不安もありましたが、積極性と体力、そして前向きな気持ちがあれば問題ありません。支えていただいた多くの方に感謝しています。

●中西秋絵さん

看護学部4年次生

海外の医療を知ることで日本の医療を客観的に見る事ができると思い参加を希望しました。シンガポールでは、実習中の学生の看護技術の高さに驚きました。また、病院内の感染に対する取り組みもとても徹底していました。一方、メンタル面のサポートやインフォームドコンセントは日本の方が徹底しているのではと感じました。こうした違いは文化的背景の違いも関係しているのかもしれない。実習中は英語で自分の意思を伝え、時には交渉することも必要です。そうした経験を経て、英語力だけでなく行動力・積極性がさらに高まったと思います。

実習を終えて

看護学部長 渡邊 順子

国際看護実習は、3年ほど前より本学看護学部とNYPと情報交換を重ね準備してきました。今回無事に実習を終えることができ安心しました。参加した中西さんは看護教育の視点から実習し、また、竹平さんは、保健師にとって必要な保健予防活動を重点的に実習できました。

国際看護実習といわれる海外研修との違いは、実習の単位認定化することにあります。準備から研修そして報告までを含めると、おおよそ3単位に相当すると考えられますが、そのためには解決しなければならない課題があり、具体的な実習内容を検討したいと思っています。

本学で行われているその他の海外実習

国際福祉実習	対象＝社会福祉学部2、3年次生
	派遣国＝ブラジル、インド、韓国
	実習施設＝聖隷関連福祉施設等
期間＝夏季または春季休暇 2週間～4週間	
国際作業療法実習	対象＝リハビリテーション学部作業療法専攻2、3年次生
	派遣国＝シンガポール
	実習施設＝地域病院、民間NGO福祉施設等
期間＝春季休暇 3週間	

ナンヤン理工学院の実習指導者の先生より



Ms. Chok Huwe Chye

シンガポールは安全で公共交通機関も整備されています。観光施設も多く食文化も豊かですから、自由時間も楽しく過ごすことができます。英語や医療システムなどを事前に学ぶ事で実習がさらに深いものになるでしょう。

2名の学生はこちらの環境にもすぐ慣れ、全ての事に積極的に取り組んでいました。探究心があり、両国の看護実践の相違について常に考えていました。最初は英語に苦労したようですが、次第に要点の把握をできるようになっていました。広い視野と学び共有したいという気持ちによって、二人の実習目標が達成されたことと思います。

※ナンヤン理工学院(NYP)について
NYPは、シンガポールのヘルスケア専門職養成における中心的な役割を担う国立高等専門教育機関です。本学とは、教育・研究活動の促進を目的とし2006年に交流協定を締結しました。以降、本学の学生・教員合わせて延べ100名以上がNYPを訪問し、本学も毎年NYPから研修生・実習生の受け入れを行うなど、活発な相互交流を展開しています。